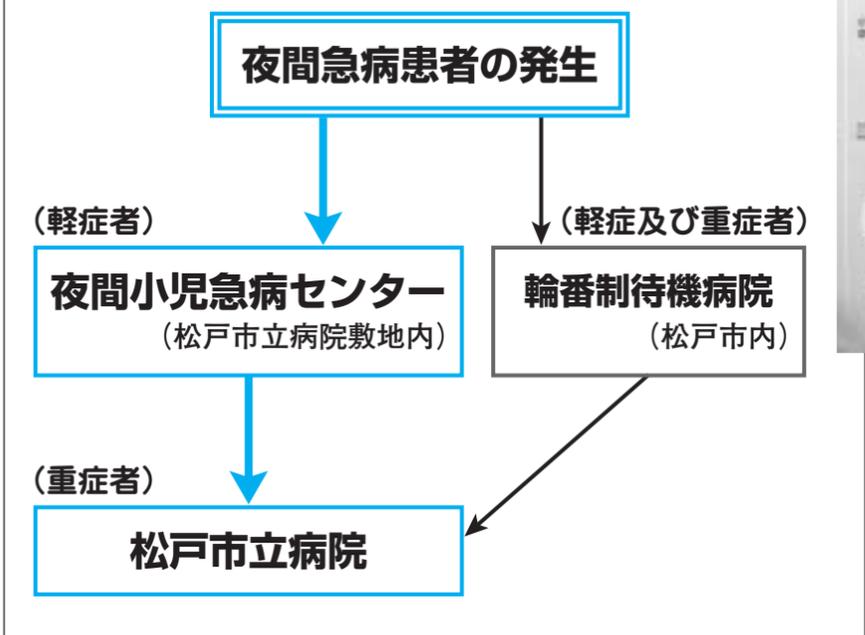


■松戸市の小児救急医療システム



軽症であれば原則として夜間小児急病センターを受診するよう呼びかけています。ただ、異物誤飲、気管挿管しているなど明らかに重症の場合は当初から市立病院または輪番制待機病院を受診することになります。

応可能ないい条件であれば市民としては歓迎です。しかし、設備投資等で費用がかかるわけですから、施設をつくらずに現在の市立病院内にその機能を持たせていくのはどうなのでしょうか？

佐藤 当初は病院内で行うという手法も考えたのですが、一次と二次が同じ場所ですと患者さん側も混乱してしまう可能性があります。別々の建物で行うのがより良い方法だと考えています。現在の夜間急患診療所でもそうですが、一次救急で来るとすぐ一杯になってしまいます。災害時などを含めて、トリアージができる場所の確保ができ、直接市立病院へ

行かない仕組みがいいと思っていま

芳澤 仮に施設を移したとしても、市立病院の医師数は変わらないし、週70時間という勤務時間が減ることにはならないのではないのでしょうか？そこを考えると意味がないと思うのですが。

桂 先日、千葉県の松戸市立病院の事例をテレビで放映していました。一次救急を担う夜間小児急病センターの運営には医師会の協力が不可欠というものでした。

熊谷 準夜帯だけの診療でしたら私も協力できると思います。

土屋 医師会の先生に準夜帯に診て



松戸市の一次救急施設を参考に

佐藤 これまでの議論から、先日、病院敷地内の別施設で小児の一次救急を行っている松戸市夜間小児急病センターを視察しました。小児科医が草加市立病院の3倍いて、さらに夜間の小児一次救急に医師会の耳鼻科や外科の医師も協力する体制がとられて大変素晴らしいと思えました。草加市でも同じようにやるとすれば、小児科医だけで体制をつくる

いたければ、待機という形で食事、病棟業務など自分の仕事ができ、精神的な負担は減るので助かると思います。

高元 これが可能であれば二次救急の受け入れもスムーズになります。また、一次救急で診た患者は、翌日に地域の先生方にかかるようにし、二次救急が必要となったら市立病院を受診するということもできます。

高元 診療時間も決まないと病院医師の負担が軽減されません。

佐藤 市立病院の夜間受診患者は午後10時以降は減っていますので、例えば午後7時から10時までとか。

高元 午後7時にしておけば医師会の先生方が間に合わなくても、それまでの間は市立病院医師での対応はできると思います。

高山 午後7時もしくは7時30分であれば、親側も何とか我慢できると思います。

佐藤 草加で実施する場合は松戸ほどの医師が少ないので一部我慢することが出てきます。小児科医が少な

るの難しいと思います。

桂 松戸市と比べると医師数に圧倒的な差がありますね。そうなること、実施した場合に長続きできるか心配です。

佐藤 現在、草加八潮医師会に加入している8割の医師は何かしなくてはならないと考えています。しかし、実際の協力が得られるかどうかですね。現実には夜間急患診療所の運営でも土・日曜日は大学病院からの派遣に頼っている状況です。今後、詰め作業が必要ですね。

高山 資料を見る限り、松戸市夜間小児急病センターは平屋で約160平方メートルで手狭な感じがしますが、実際どのような印象を持ちましたか？

佐藤 待合場所はやや狭かったですが、ただ、ポケットベル10個が用意され、患者さんの呼び出しが可能になっていて、車内で待機できるようになっていました。

桂 実際に草加で実施する場合、どの程度のものをイメージしていますか？

佐藤 建物は松戸市と同じ程度で、診察室は3部屋あればよいのではないかと考えています。

実施は医師会との協力で

高元 松戸方式と同様のものを実施する場合、議会との調整等を含め、建物がかかるまで少なくとも3年はかかるかと考えています。その間、当面は草加市立病院内で既存の設備を使って実施することになると思います。医師会と協力体制をとり実施していく方向で詰め作業を行っていきたくと考えています。

草加市小児・救急医療問題懇話会では、これからの小児救急体制について検討した結果を取りまとめ、木下市長に報告しました(右写真)。



左から佐藤座長、城石副座長、木下市長

■小児夜間救急の充実に向けて

- 草加市立病院敷地内に小児医療に特化した夜間急患診療所の設置を目指す。
- 草加市立病院勤務医師の負担が軽減されるような仕組みを検討する。
- 市民に向けた啓発活動を展開していく。

先進事例

松戸市夜間小児急病センター (千葉県松戸市)



松戸市夜間小児急病センター(上写真は松戸市立病院隣接。診療は午後6時~11時。)

48万都市の小児一次救急を支える松戸市夜間小児急病センター。平成18年4月に開設され、松戸市立病院小児科医師1名のほか午後8時から地元医師会の医師2名が加わり、15歳までの軽症(一次救急)の内科系疾患を対象に診療を行っています。

これまでは市立病院から約2キロメートルほど離れた場所に小児夜間診療所があり、午後8時から11時まで診療を行っていました。しかし、小児救急の充実を図るため、現在の体制になってからは診療開始が2時間早まり、午後6時からとなりまし。重症であれば隣接の市立病院を紹介し、平成19年度の患者数は9558人でした。

一次救急を行う同センターでは、診察が終わると医師はカルテの写しを患者さんへ渡し、翌日に地域の診療所のかかりつけ医に報告するよう説明しています。ただ、診察により高度な治療や入院が必要と判断された場合は、市立病院へ連絡し紹介のうえ、受診してもらうように指示しています。また、緊急の場合は医師と看護師が付き添ってストレッチャーで患者さんを搬送します。

夜間小児急病センターが市立病院敷地内に設置されて約3年。松戸市立病院小児科部長の小森功夫医師は、「地域の先生方も顔を合わせて意思疎通ができ、より質の高い医療を患者さんに提供できています」と話します。一方、利用する方の中からは、「ここで健診を受けさせてほしい」「薬は3日分くらいないと困る」と要望する声も。

小森医師は「センターに来て診療をするのは、それぞれの医療機関で勤務が終わってから働く有志の医師であること、そして急病のお子さんに対して朝までの応急手当をすること、このセンターの役目であることをもっと理解していただきたいですね」と話していました。

市立病院とのスムーズな連携で安心感

松戸市立病院 小児科部長 小森功夫医師



松戸市立病院 小児科部長 小森功夫医師

松戸市立病院	
病床数	615床
診療科	24科
(院内標榜科目)	3科含む
小児科常勤医師数	17名
(平成21年1月1日現在)	